

2023年度 事業成果報告書



熊本県熊本市における「子ども第三の居場所」(ABCD)
学習・生活支援モデルの運営

(一社) 熊本私学教育支援事業団

熊本学習支援センター

大江本校、近見校、長嶺校、清水校

目次

- 事業計画
 - (1) 事業目的
 - (2) 目標
 - (3) 事業内容
- 事業実績
 - (1) 利用者実績
 - (2) 支援等実績
 - (3) 経験の不足を解消するようなイベント実施
- 事業の総括
 - 事業の成果と課題

事業計画

(1) 事業目的

生き抜く力を育む「子ども第三の居場所」を開設・運営する。
行政、NPO、市民、企業の方々と協力し、誰一人取り残さない
地域子育てコミュニティをつくることで、「みんながみんなの子どもを
育てる社会」を目指す。

(2) 目標

- ・ 2024年3月31日までに一日平均利用児童数を15～20名にする（4拠点70名）
- ・ 児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援などの安定的な提供
- ・ ボランティア等の地域住民や、学校・民生委員・校区社会福祉協議会と協議し、子どもの包括的支援体制の構築を目指す
- ・ 子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に8回（教育キャンプ、収穫体験等）実施する
- ・ 保護者会を定期開催する



(3) 事業内容

熊本県熊本市における「子どもの第三の居場所」

(ABCD)学習・生活支援モデルの運営

(1) 期間：2023年4月1日～2024年3月31日

(週5日、14時から19時まで開所)

(2) 場所：熊本県熊本市（大江本校、近見校、長嶺校、清水校）

(3) 対象：70名（家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年中心、
大江本校20名、近見校20名、長嶺校15名、清水校15名）

(4) 内容：子どもとのと1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣
形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。

1対1対応の学習をサポート、子ども食堂の開催による食育・食事提供、
生活支援、季節行事やスポーツ、教育キャンプ等の体験活動を提供する。

また、オンラインによる海外交流を通じて、幅広く世界に触れる機会をつくる。
子どもたちが安心して学び、楽しく過ごせる居場所を提供する。



事業実績

(1) 利用者実績

●登録者数…167名

(全小中学生 名が所属校長判断で出席扱い)

●登録地域

	小	中	高	合計
男	7 (-1)	41 (+15)	32 (+13)	80 (+27)
女	12 (+4)	42 (+12)	33 (+9)	87 (+25)
合計	19 (+3)	83 (+27)	65 (+22)	167 (+52)

	熊本市	合志市	八代市	氷川町	宇城市	菊陽町	阿蘇郡	合計
男	73	1	1	1	2	1	1	80
女	83	1	1	0	1	1	0	87
合計	156	2	2	1	3	2	1	167

※昨年度比

(2) 支援実績

① 学習支援



学校と併用して利用している児童も多数在籍しており、拠点を利用した日は学校での宿題を持参したり、タブレット学習をしたり、お絵かきをしたりと自由に過ごす中で自分のすべきことを考えながら過ごしている。他にも、登校はできているがどこかと繋がっていたいということで、放課後利用している特性を持った児童もいる。学校の宿題やカードゲーム、知育などを中高生、大学生スタッフと遊びながら、ひとと共に『楽しく』時間を過ごすために必要なことを学び、社会性を育むことができた。

「熊本学習支援センターの熊本市内に拠点を構える4校（大江本校、近見校、長嶺校、清水校）では、各拠点の常駐スタッフや大学生スタッフによる個別対応型の学習支援を行っている。不登校の児童生徒の大半が学習への不安や苦手意識を持っているため、学習を強制こそしないが、個々人の躓いたところまでさかのぼって学ぶため、学習意欲を高める児童生徒が多々見られた。

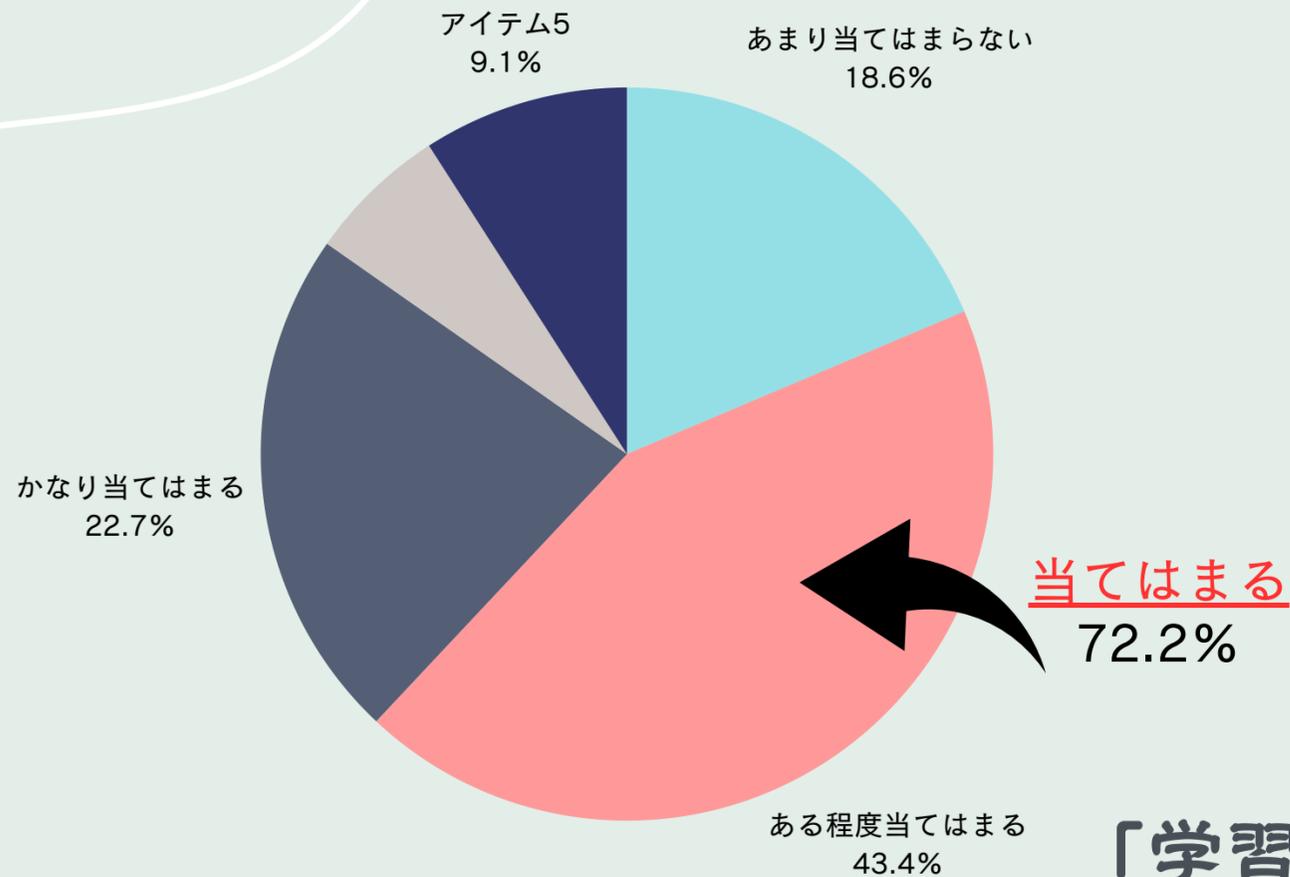


2023年度 事業成果報告書

【子どもに質問】

「熊本学習支援センター」に通うことで、変化したことを教えてください。

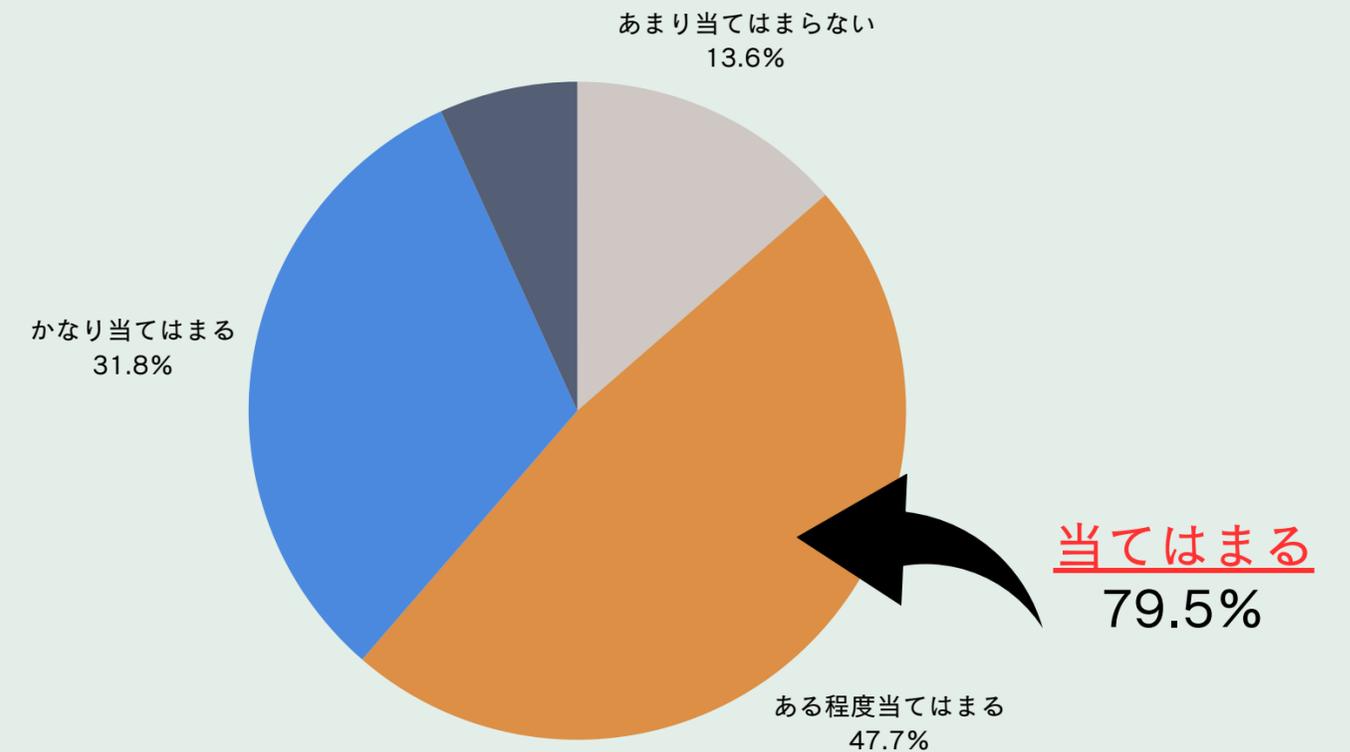
「学習する時間が増えた」 (n=44)



【子どもに質問】

「熊本学習支援センター」に通うことで、変化したことを教えてください。

「勉強で分からない点を友達や大人に聞けるようになった」 (n=44)



「学習/生活習慣」が定着
さらには、「わからないことを聞けるようになった」
79.5%

(2) 支援実績

② 生活習慣支援

拠点を利用する児童生徒の多くが、朝起きられない「起立性調節障害」と診断を受けている。相談時も「朝が起きられなくて困っている」という相談を多々受けるのであるが、拠点としては「無理に朝起きなくてもいいよ」と話をし、開所時間も午後に設定されている。通所を通して無理ない程度から生活のリズムを調整し、元気の補充が出来たら徐々に朝にシフトできる子はシフトしていくことができ、学校への登校も可能となった。

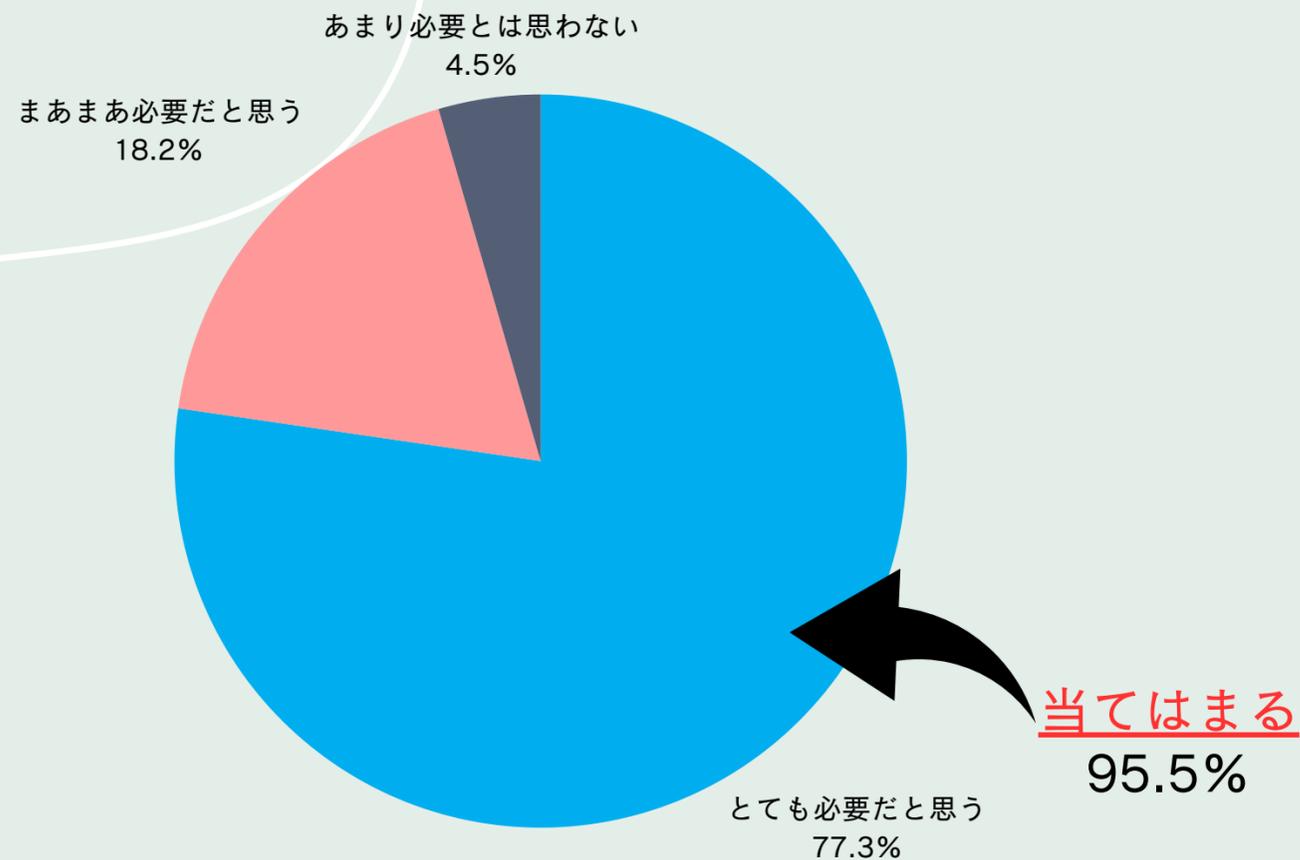


週1回の子ども食堂では、各拠点のスタッフがメニューなどを事前に公式LINEでお知らせし、子どもたちが足を向けやすいような仕組みとなっている。メニュー決めも子どもたちが主体で行ったり、時季に合わせたメニューとなったりと工夫を行っている。「行きたい！」も大事だが「行ってみようかな」と思えるようなゆるい雰囲気作りが功を奏した。

2023年度 事業成果報告書

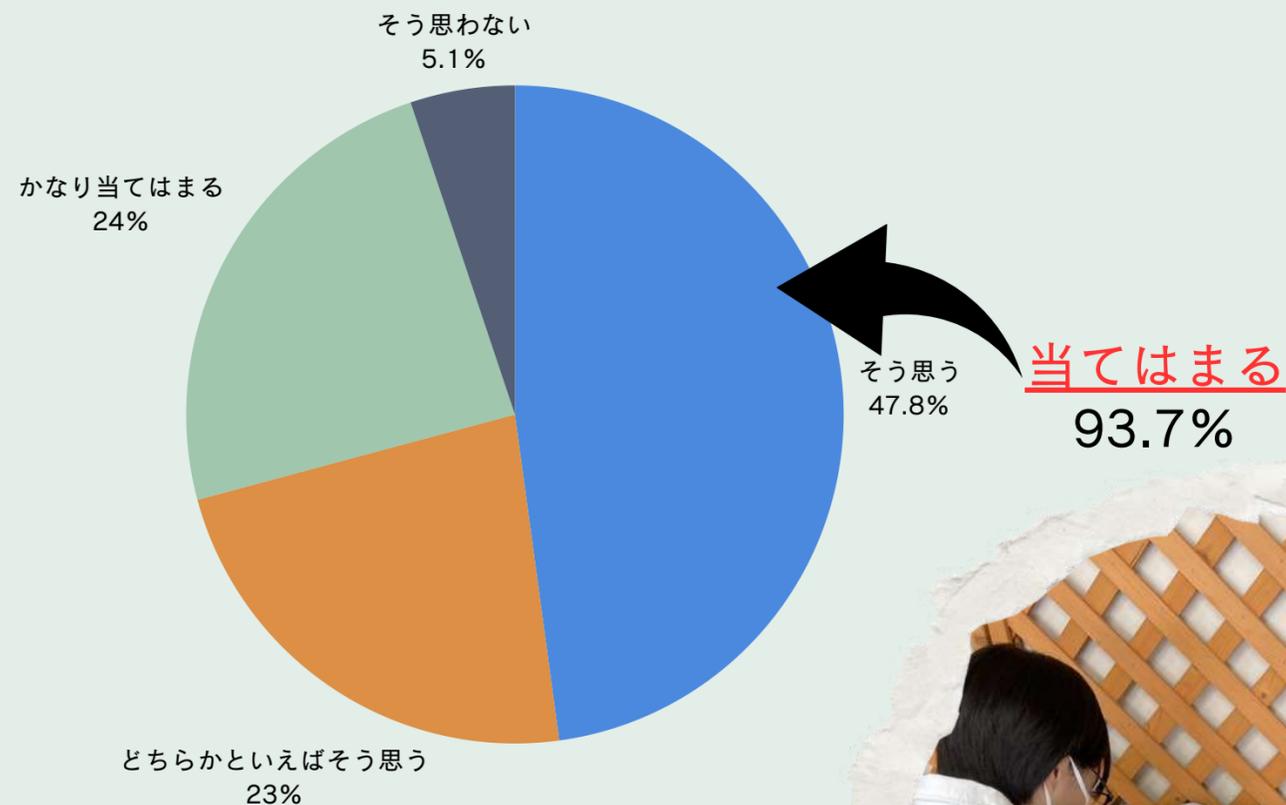
【子どもに質問】

「熊本学習支援センター」のような、学校や家、塾でもない「居場所」が必要であると思いますか。(n=44)



【保護者に質問】

「センターを不登校で悩んでいるほかのご家庭に教えたいと思いますか。」(n=79)



【子どもに質問】 「熊本学習支援センター」に通うことで、できるようになったことを教えてください。

- 運動ができるようになった (小学2年生)
- 外に出る機会が増えた (高校1年生)
- 引きこもらず外に出て家からセンターまで歩いて少し健康になった (中学3年生)
- 日中起きれるようになった (小学4年生)



(2) 支援実績

③ 居場所支援

学校でも家でもない、第三の居場所として過ごしやすい環境を整えながら支援を行っている。主に大学生スタッフと一緒にボードゲームをして過ごしたり、他愛もないお話をして過ごしたりと、子どもたちが「したいこと」を中心に生活をしている。中には趣味の音楽を楽しむ児童生徒もあり、毎週火・木曜日に好きな曲を一生懸命に練習をしている。今年の3月に挙行了した「卒業式」では、練習していた卒業ソングを友人たちのために堂々と披露し、大変頼もしい姿も見られた。

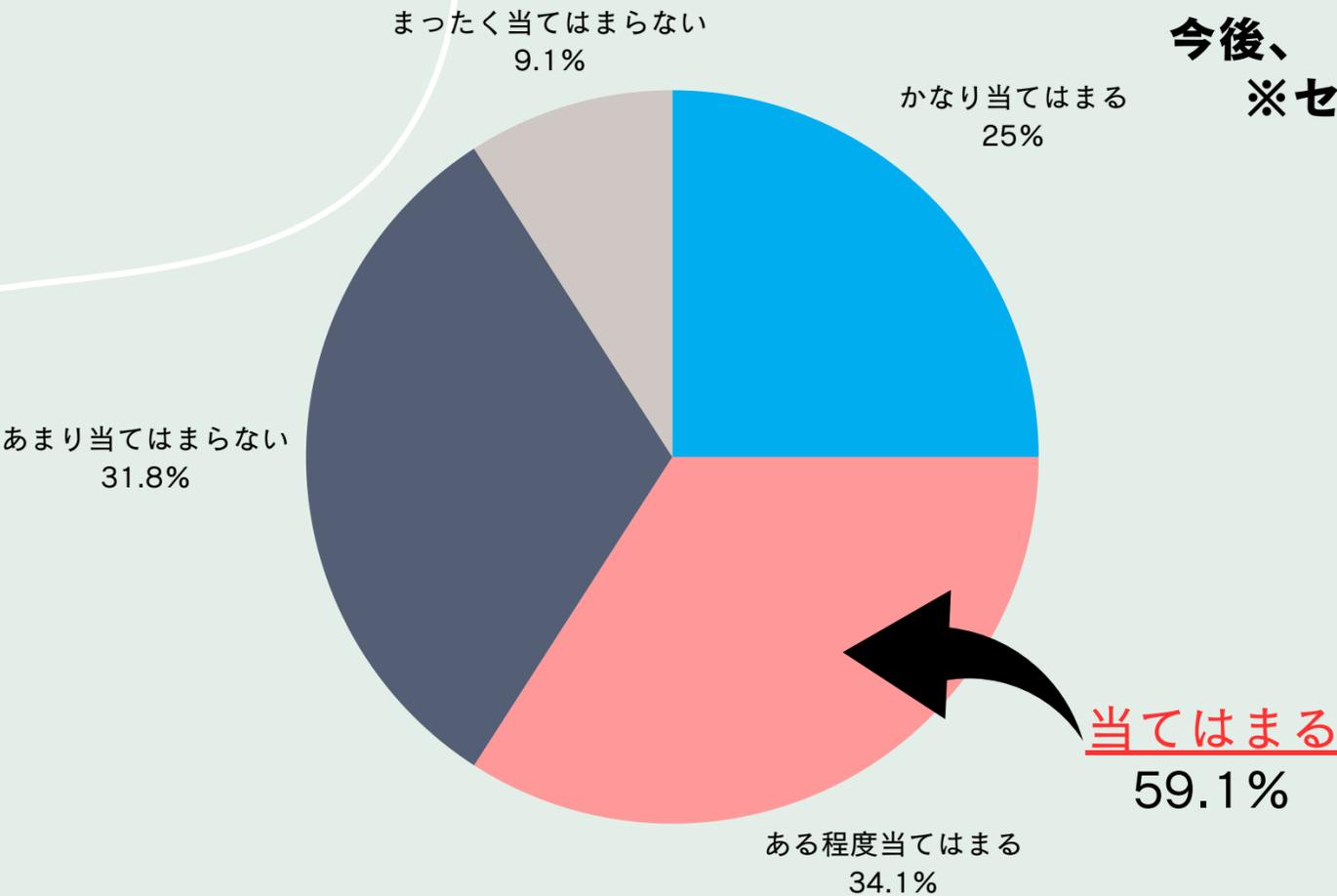
自分の趣味を活かしながら過ごしていく中で、新しいコミュニティができ「センターに来るのが楽しくなった」「また明日も一緒に遊びたい」という生徒の声もあり、協調性を育むことができた。



2023年度 事業成果報告書

【子どもに質問】 「熊本学習支援センター」に通うことで、変化したことを教えてください。

項目「どんなことにも挑戦したいと思う『チャレンジ精神』を持てるようになった」



今後、「熊本学習支援センター」でどのようなことにチャレンジしたいと思いますか。
※センターでできるかどうか分からないことでも気にせず記載ください（子ども）

- ・文化祭、体育祭、定時制と同じような行事で青春したい（高校1年生）
- ・人とのコミュニケーション（小学6年生）
- ・英検準二級の取得・偏差値60の突破（高校2年生）
- ・ボランティアに参加したい（高校2年生）
- ・もっと難しい勉強もできるようになりたい（中学3年生）
- ・無理にでも学校に通わせないといけない！という考えがかわりました。（中学3年生 保護者）
- ・学校に通うことが◎ではないと知ったから。
- ・学校に行けない時に「行かなくていいんだよ」と言っても、学校以外の選択肢がわからなくて、不安しかなかったから。
- ・実際進めています。みなさん知らないだけですし、正直親御さんには抵抗が無いとは言えないと思います。でも実際我が子が通うようになり、楽しそうにしている姿を見るのはどの親御さんも何より幸せなことだと私は思います。（中学3年生 保護者）
- ・色々な学びの場がある時代になっている事を知ったから。
- ・学校が全てではない、子供が笑顔で生活できる事がセンターを知る事で出来るなら、学校へ行けない子供がいれば伝えたいと思います。（中学3年生 保護者）
- ・普通に学校に行く事だけが正解じゃないと知ることができたので、悩んでいる方に寄り添い子供に合った学習の場があることをお知らせしたい。（高校1年生 保護者）

2023年度 事業成果報告書

(3) 経験の不足を解消するようなイベント実施

- ・ 週1回の子ども食堂を実施
- ・ 2023年4月から2024年3月までの1年間に計25回のイベントを実施した。

- 5月12日 谷津田病院ペルバス
- 5月24日 バドミントン会
- 5月30日 たらしこみアート
- 6月29日 音楽活動

- 7月13日 バドミントン会
- 7月27日 サッカー会
- 7月31日 プラ板ワークショップ
- 8月25日-26日 夏キャンプ (天草下田南)
- 9月13日 サッカー会
- 9月20日 動画クリエイター展

- 10月6日 栗拾い
- 10月26日 体育イベント
- 10月30日 ハロウィンパーティー、映画観賞会
- 10月30日 ハロウィンパーティー、卓球会
- 10月31日-11月2日 秋キャンプ
- 11月15日 粘土つくりイベント
- 11月17日 煎茶会
- 12月8日 煎茶会

- 2月2日 豆まき
- 2月6日 煎茶会
- 2月9日 センター感謝祭
- 2月29日-3月1日 天草下田南キャンプ
- 3月13日 八景水谷公園ピクニック
- 3月22日 センター修了式・卒業式
- 3月26日-28日 春キャンプ



(3) 経験の不足を解消するようなイベント実施



事業総括

事業の成果と課題

昨年と引き続き、学習支援では児童生徒との学習習慣が身につく、継続的な学習を行うことができた。不登校であるため、集団学習への不安が著しい子どもたちが多い中、躓いた单元まで戻ることができる学習スタイルが、子どもたちが本来持つ学習意欲につながったのであろう。

次に、各拠点による子ども食堂を中心としたイベントの開催で、家から全く出られなかった子どもたちが家以外の場でなにかをしたいというように気持ちの変化が見られた。特に、キャンプなどの体験活動では拠点の違う子どもたちの友好の輪が広がり、拠点へ通う頻度が上がるなどの効果が見られた。

さらに本年度は生徒たちの主体性を重視し、文化祭や感謝祭などの運営に携わらせてみたことで、子どもたち自身が自分たちの振る舞いに自信を持ち、自己肯定感の高まりを感じることができた。最終的には「仲間と作り上げた達成感」や「自分だってやればできる」というチャレンジ精神が生まれたように感じた。

課題としては、「スタッフの業務効率化と深化」「子どもたちの主体性を育む活動やイベント実態」「児童のニーズに応じた居場所づくり」が挙げられる。今年度の成果と課題を生かし、次年度も子どもたちのほっとできるような第三の居場所として活動を継続していきたい。



次年度も
笑顔いっぱい
頑張ります！

THANK
YOU

